

Date:

19 / 10 / 5

Name:

こじまかおこ

tomitoのレポート

◎ 再配置 / 読み換え ... づいづい - 3/2 的のみ

“編集” はず

◎ 3/2 / 余白 ...

不目キが コミットしやぞう。

“仕事”のあり庭↑

“まどみ” (111のわんどみたいた?)

◎ ビール飲んていいよ! 2言2しれ子建物

2行キ!

◎ (言ひらねるもの = 過去の人に通信する?)

WSレポート

思わぬ話が出て来しも!

◎ 具体的なモノ・行為 を使え!

(行キなら 描象的でも 述べてくれる)

↑ やがち! 友. 1/5の ...

Date: 2019 / 10 / 5

Name: 西井 彩

Tomitoのお二人のお話ともおもしろかったです。
建築やランドスケープのような「場所」のデザイナー
では、地形や対象地のまわりとの関係が
論点になることは避けられず、それには必ず
その地の歴史が関わるといいます。エス/グラフィ
と建築やランドスケープが一緒に語られること
が多いのはそのため？ どちらも流れる時間を
観察する行為だと思っています。
(セカリとる)
後半のWSでは、ひとつのモノから人の生活に
せまえていく実践ができたのしかったです。
耳かきとかつめ切りとか、出現頻度が4分の
モノをスラングで長いスパンで使用を観察
するのともおもしろそう。

HOME
in Tokyo

Date: 05 / 10 / 2019

Name: アイ

三日で話さないで生活の違いを見たいこと
~~は~~ は 印象 でした。Tactile collage を 作る とき
に ホスト if に 記 録 して いた かった こと も
あって、他の 記 録 方法 も 必要 か も し れ ない
です。最終 的に 「作品」 として 見 ら れ る の は ち
づ の media と し れ る た ら う と思 っ ました。

今日 又 世 話 者 に な った tomita architecture
のは information packed と思 っ ました。実 家
として 実 家 という project は 一 番 印象 的 で、
自 分 の 研究 にも ち づ も 参 考 に な り ました。こ う い
う project は ち づ に でき る か と う か ち づ に な り ます。
日本 た か ら こ そ、~~#700~~ ホ ー ム は ち づ に こ ー プ
で 起 事 の も あり かな と思 っ ました (ち づ に
お っ ない の だ)。でも 安全 ではない けど も、空 間 を
その 問題 直 に の り こん だ 発 見 が でき たら
大 切 か も し れ ない だ と思います。

HOME
in Tokyo

Date: 2019 / 10 / 5

Name: Hana Matsuo

Tomitoさんの話を聞いて、民藝を思い出しました。
「たたく、弱いものだけや」と、どこか、
現代人が本能的な生活で忘れ去られて
いるような、親しみやすい小懐かしいものや、
建築で表現されているように感じました。

そして、全ての考え、服装や生活スタイル、価値観は
社会的に構築されていて、それが立派々に表れ、
かつ本元的なものになっているのか、
生活であり、'home'であるのかと、
今回のworkをやってみて感じました。

暮らしや家族、その人の生活に至るまで、
microwaveに表れるのは面白いと思いました。

でも、実際にインタビューやリサーチしていく上で、
何を基準にするのか、母期間はどれくらいあるのか
は大事だと思いました。

HOME
in Tokyo

Date: Oct, 5th, 2019

Name: 初田 美紀子

<前半> トミトア-キラクテ-への講義

- あきもの ^{よいものから} 見えの質感。その又又の _{の質感}

バランスから、目の前にはあきものを直撃に向き合っている
お二人のお話は とても楽し。支感で王冠、うんぬん
お話ばかりでした。使わゆる単語たちも。正直は等身
言葉ばかりで、心地良い時間でした。

<後半> Time Tactile

協同作業の中から生まれる文(会話)が
とても面白い。無理のないアプローチ。お互いの
理解を進めるとは、有交は手法がね。

'Home' in Tokyo という題名で、最近では "この家以外
どこか、期せずして建築関係のプロジェクトにはおたの
みをお話を主にとり、f(エム)と、とても刺激的でした。

次回も楽しみに!!

HOME
in Tokyo

Date: 2019 / 10 / 5

Name: 本高本日青カロ

Tomitomoのおふけの言は、映像系を弄っていく
うまいも反映できるキーワードがたいていあり
とても面白かったです。

"自分がXP化してはから歩いていくことで
素材が集まっていく"

"3Dボードをつくらうとするのではなく、
(魔法の杖に作り変えるのでいい)
-2-2の生活のすがたに素直に成り
つくといいが、おのずと合ってくるべきものが
つくれる。"

というのがバにハマりました。後、ランドスケープに
少し興味が湧きました!

後半のワークショップでは、相手の暮らし方に
ついて探っていく行程で「何かを知ろう」と
して話し合い質問したりしたことも、普段は人に
言わない部分までを(無理やり)話してもらって、
とても楽しかったです。

HOME
in Tokyo

Date: 2019 / 10 / 15

Name: 神野真実

今日のアタリでは、「一部を通じて
全体を見る」ということを学びました。
トピタレワタレでは、ある空間を
つくるために 持ちあがってきた
行いの中から 過去や資源の一部を
採集し、ワグニョッポでは 1週間
を中心に 24時間を 書きだすことで
部屋全体や生活全体を見ることが
できました。

映像をこの時に どのように一部に最初
フォーカスするか、今から考えたいと思えます。

HOME
in Tokyo

Date: 2019/10/5

Name: タカセマ

是との距離をaとし、
対象者

ニヤバカリは正解
はT子いAでいF子いカ'。

トミトA語を走して

や、2子子カ(子い、2子

~~先達の/かいウを~~

先達の/かいウを

先達の/かいウを

HOME
in Tokyo

Date: 2019 / 10 / 5

Name: 板野岳

トミトP-キチキチの二人が言っていた、「自分たちはか
作れない建築にせねば」という思いで、「そのエピソード、
相手にと、この居心地の良い場におき」という考えこの
葛藤は研究会でのカンパの承認作業の際に
迷ったことと似ていました。自分自身とクライアント
が世界に存在する人々の思いのせめぎ合いは表現に
つづきのかきかきません。

また、建築には100年前から考へるという話がありましたか、
100年前と今、共通していることは、ある意味普遍的なものの
考えにも通用するものがある、と思えました。

Date: 2019 / 10 / 15

Name: テイ

映像《Laundry Lives》について。

洗濯という日常行為も料理みたい、その人の背景、家庭、性格をつながると思う。大学の寮生活でルームメイトの洗濯方と干し方にびっくりした。その時は自分の母の洗濯物を干すに使う杖みたいな物の使い方がずっと違っていることが知った。大学の寮生活を経て、実家の新しい洗濯方法、干し方を導入した。

ということ思い出した。

Date: 2019 / 10 / 5

Name: 橋本 隆史

トミトのレクチャーを聞き、建築家の本質は、リサーチ
なんだと思いました。建築家としては、そのリサーチの
手法によってみえてくることとか、質問にあたり、聴くべき
時間の範囲とか、それぞれ何をもって、リサーチするのかに
よって、個性というか、どうあがってくるものが変わってくる、
めだと思いました。

後半のワークショップでも、自分たちが思っていた方向に
話が転じていったし、リサーチ大事だなと思いました。